

閉会の辞

梅木 美樹（食物栄養科学研究科長）



食物栄養科学研究科長の梅木と申します。本日は浅野先生をはじめ、各専攻のパネリストの先生方におかれましては、大変貴重なご講演をありがとうございました。

私自身の日頃の研究では、機器分析で得られた「数字」を読むということが多いため、今回の「物語」「文字」「心」などを読むというお話は非常に新鮮な内容でした。また、会の冒頭の田中文学研究科長のご挨拶で「別府大学にはいろいろな先生がおられますが、各先生がどのような研究をされているのかを知る機会がなかなかないので、それを知る機会になってほしい」とおっしゃっていましたが、今回のシンポジウムはまさにそのような機会になったのではないかと考えております。

研究をやっていると自分の専門分野に集中してしまい、視野が狭くなりがちです。自分とは違う専門領域の研究の話聞くことは、視野をもう一度広げるよい機会になると思いますので、参加してくれた学生の皆さんにとって今日のシンポジウムがそのような機会になってくれたのならと思います。また、学外よりご参加いただきました皆様、週末の貴重な時間にこのシンポジウムにご参加いただきましてありがとうございました。別府大学大学院には、今回の「読む」というテーマだけでもこのようにたくさんの視点からの研究紹介ができる教員が揃っております。今後もこのような機会を通じて別府大学大学院をより知っていただけたらと思います。

簡単ではございますが、閉会の挨拶とさせていただきます。本日は、ご参加いただき本当にありがとうございました。